

くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

9月1日 (No.39・残暑お見舞い号)

2005
*
9月

NPO法人エコシティ志木

代表理事 天田 眞

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://www.cc.e-mansion.com/~eco/>



写真：山崎光久



勝手にレッドデータ of 志木 (25)

イワツバメ

志木市役所の駐車場で、イワツバメが巣作りをしていたのをご存知ですか。普通のツバメは、カラスに襲われながらも、まだ市内のあちこちで巣作りを見ることが出来ますが、イワツバメはなかなか見ることが出来ません。ただ、駐車場で糞が迷惑なためか、巣が取り払われている様です。柳瀬川駅やペアモール商店街のように、糞を受ける台を付けるなどして、ぜひ巣立ちまで優しく見守ってあげたいものです。(山崎光久)

新河岸川水系 身近な川の一斉調査 身近な水環境の全国一斉調査

05年6月5日(日) 9:00~12:30

主催： 新河岸川水系水環境連絡会
全国水環境マップ実行委員会

志木地域主催：エコシティ志木、

協力参加：宗岡中学校科学部

参加者：17名

志木では10年目になる今年も宗岡中学校科学部とともに調査しました。新河岸川水系では毎年約50団体で250地点を調査しています。昨年からは全国一斉の調査も行われるようになり、今年は全都

道府県で約400団体が5,800地点を調査しました。

主要な測定項目の結果は表の通りで、概ね例年と似た傾向ですが、今年は前日に雨が降ったためその影響がでている(薄まっている)と思われます。

◆ 秋が瀬の水温が低い。(例年は20℃以上)

◆ ECは赤野毛・秋が瀬以外は過去最低。

◆ 栄橋のCOD4は過去最低。(過去4年間は10)

◆ 透視度は新河岸川は過去最低、柳瀬川はそれほど変わらない。(河床の違いか)

採水地点	測定項目	水温 ℃	pH	EC μ S/cm	COD mgO/L	透視度 cm
志木大橋(柳瀬川)		23.0	7.5	320	8	80.9
栄 橋(柳瀬川)		23.0	7.5	320	4	54.0
袋 橋(新河岸川)		20.0	7.0	250	4	14.3
いろは橋(新河岸川)		20.0	7.5	240	4	11.3
宮戸橋(新河岸川、柳瀬川と合流後)		21.0	7.0	280	6	26.8
こもればのこみち湧水(湧出口直近)		18.5	7.0	230	0	100.0
赤野毛排水路(宗岡二中脇旧堤防前)		20.0	7.5	330	6	34.6
秋が瀬取水堰(荒川、都水道用水取水口前)		18.0	8.0	183	2	42.3

◆ pH(水素イオン濃度)：7が中性、それより高いとアルカリ性、低いと酸性。

◆ EC(電気伝導度)：水中の無機イオンの量。数値が高いと不純物が多い。

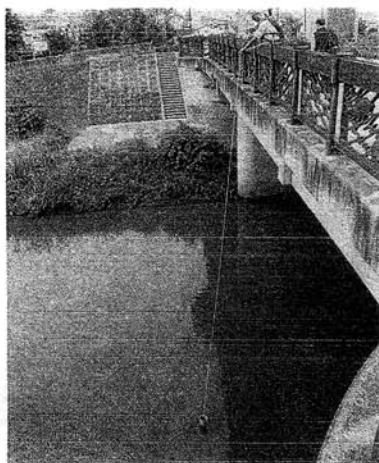
◆ COD(化学的酸素消費量)：酸化剤を加えて有機物を酸化する時に消費した酸素の量。
数値が高いほど有機物による汚れが多い。

◆ 透視度：透明なパイプに水を満たし、中の指標が上から見えなくなるまでの深さ。

● 柳瀬川：河床は砂礫中心。平常時水量の半分以上が下水処理場の放流水で水温が高い。

● 新河岸川：河床は泥が中心で濁が多い。過去、EC・CODは常に柳瀬川より低い。

● 荒川：大半は武蔵水路で導水された利根川の水。朝霞・東村山等の浄水場へ送られる。



上：宗岡中理科室での測定作業

左：橋の上からバケツを下ろしての採水作業

6/6
(月)

6/7
(火)

宗岡第四小学校／志木小学校

プールのヤゴ救出作戦

6/6（月）に宗岡第四小学校（2年生2クラス約40名）、6/7（火）に志木小学校（1年5クラス約110名）でプールのヤゴ救出作戦を行いました。

学校のプールには意外といろんな生き物が棲



「ヤゴはどうやってエサを食べるのかな？」

んでいます。トンボの幼虫のヤゴもそんな生き物の一つですが、そのままにしておくとプール開きの時に死んでしまってトンボになることが出来ません。そのヤゴを子どもたちで救い出しトンボにしようという活動がこの「プールのヤゴ救出作戦」です。志木市内の小学校では、エコシティ志木の提案を受けて1998年から授業の一環として行うようになりました。

ちなみに志木小学校では、1年生約110名でヤゴ1,264匹を救助しました。プールでの救出の後、当会や埼玉県生態系保護協会志木支部のメンバーが教室で紙芝居や、寸劇をしてヤゴの生態や飼い方を伝授＝写真＝しました。

（毛利将範）

* 6/9（木）には志木第二小学校でも実施予定でしたが雨天のため中止となりました。

7/11
(月)

志木中学校

オオブタクサ拔取り作戦

4月から志木中学校での教員生活が始まり、学校内の人の「環境」、地域の人々の「環境」、自然の「環境」という三つの環境が、志木はとても整っているなというのが初めの印象でした。特に自然に関して、桜や新緑など、いろとりどりの自然が目には鮮やかな土手を毎日通勤できているのがとても幸せです。生徒たちも、そのような自然の恩恵を受けながら、のびのびと育まれているようです。

先日の「オオブタクサ拔取り作戦」では、ほとんど教員側からの指示がなかったにも関わらず環境委員会を中心に生徒相互の呼びかけによって約140名もの生徒がボランティア活動に参加してくれました。

志木中学校の三つの学校目標、「考える人・思いや

りある人・たくましい人」の通り、自ら判断し行動できる心優しい生徒が多くいるのだなと嬉しく思いました。

今後もこのような緑豊かな志木のまちづくりに貢献できる機会を捉え、さらに多くの生徒と職員が一体となり、活発な活動に寄与できたらと思っています。

（志木中学校教諭 田中絵里加）



柳瀬川にはびこる外来種、オオブタクサの拔き取り作戦に参加した志木中学校の生徒さん達

「富士見環境センター(志木地区衛生組合)」 および「利彩館」を見学して

ごみとエネルギー部会

7/10
(日)

リサイクルプラザ「利彩館」 見学報告

この日は私達(計2名)以外に見学者がいなかったようで、ゆっくり説明を受けることができました。プラスチックにも資源化できるものとできないものがあり、汚れていると可燃ごみ扱いですが、きれいだとも200kgずつ圧縮して業者に引き渡され、換金が可能ということです。現在、この200kgパックのレベルはAランクということで、業者に出すべく倉庫の中にストックされています(=写真左)。説明を受けて感じたのは、リサイクルの技術がいかに進んだとしても、より重要なのは、「出るごみを減らすこと」ではないか、ということです。

7/22
(金)

「富士見環境センター(志木地区衛生組合)」見学報告

2000年に着工し、2002年4月にオープンした「リサイクルプラザ利彩館」。もう皆様にもすっかりお馴染みのことと思いますが、メインは右隣にある「富士見環境センター」です。設立は昭和61年ですからもう20年近くになります。1日90t処理できる焼却炉が2基(=180t/日)あります。ちなみに志木市の平成15年度の総ごみ排出量は約67t/日です。この施設は、富士見・新座・志木3市のいわば家庭ごみ処理の要ともいえるごみ焼却施設です。平成12(2000)

年にダイオキシン対策工事が完成し、最新の技術を用いてダイオキシン抑制に努めています。

現在、志木地区衛生組合では、平日および土曜午前に一般向けの施設見学を受け入れています。平成17年になってからは、市内と市外あわせて20校近くの小中学校から見学依頼があったそうです。環境教育への関心が市民の間で高まっているを感じさせられました。

ごみを出すときなぜ分別が必要なのでしょう
か？

それは、可燃ごみの中に金属片などが混ざっていると、粗大ごみなどを細かくする破砕機が故障する場合があります、その後のごみ処理に支障が出てしまうからです。環境センターを見学してみて、このことがよくわかりました。

* 利彩館は日曜日でも開館しているため7月10日に見学ができましたが、環境センターは土・日が休みであるため、日を改めて見学をお願いしました。「リサイクルプラザ利彩館」および「志木地区衛生組合」のスタッフの方々に心から感謝致します。

(ごみとエネルギー部会長 三浦真奈子)

「ゴミ あなたならどうする？」

* ごみとエネルギー部会では、ごみに関するアンケートを行っています。是非ご協力下さい。

配布場所：利彩館、いろは遊学館受付

期 間：8月21日～9月21日

問 合 せ：048-487-4967 (FAX 三浦)



↑利彩館のプラ200kgパック。Aランクの資源プラスチック



↑環境センターのペットボトル(左)と缶のストックヤード

7/30
(土)

柳瀬川右岸・志木大橋たもとで

竹の子エコクラブ「柳瀬川・川あそび」

竹の子エコクラブ主催の川遊びに参加しました。水生生物調査では、ヒルが多く、全般にやや汚れた川の指標生物がほとんどです。魚捕りでは、水かさが小さな子の膝上まで、流速も早

く、瀬渡りが大変そう。でも、普段、川を歩くことなど無いので楽しそうです。それぞれ、河岸の草むらをガサガサし、ウキゴリ、ヌマチチブ、モツゴなどが捕れました。

(水と緑部会長 小島敏文)

【捕れた水生生物たち】

《全国水生生物調査の時間》：シマイシビル、ミズダニ、コカゲロウ、シオカラトンボのヤゴ、アメンボ、ヒメアメンボ、水生ミミズ or ゴカイ？、シジミ（外来種）、ウシガエルのオタマジャクシ、ウキゴリ他

《魚捕り手網体験・投網実演の時間》：ボラ、ウグイ、コイ、マハゼ、ウキゴリ、ヌマチチブ、メダカ、モツゴ、ギンブナ、テナガエビ、ヌマエビ、アメリカザリガニ

【主催】三芳町立竹間沢公民館「竹の子エコクラブ」

【参加者】子ども37名+大人（サポーター）13名



8/20
(土)

こどもとおとなの自然塾（05年度第3回）

トンボとチョウを見てみよう

午前9時いろは親水公園「こもれびの小径」のあずま屋に集まったのは、総勢19名（うち子供7名）でした。

教育サービスセンター柿崎所長の挨拶の後、早速虫取り網を持って、虫を探しました。いろは親水公園の付近は、川に面した草原と、敷島神社裏の斜面林と、狭い範囲で異なった環境があり、多くの昆虫が期待されました。川原では飛び交っているウスバキトンボを追って、大人も子供も夢中で網を出すのですがなかなか捕まりませんでした。また、林の中では、サトキマダラヒカゲなど珍しいチョウを捕まえることが出来ました。

捕まえた昆虫の名前を全員で図鑑で調べ、食性などを知ることが出来ました。最後に、蓑虫の蓑を破って中の虫を出しましたが、蓑の丈夫

なことに、出てきた蓑虫の大きさに大人も子供もびっくりした一日でした。

(埼玉県生態系保護協会志木支部長 山崎光久)



柳瀬川の野鳥たち

リンクがかわいらしいコチドリも忘れてはなりません。

柳瀬川の流域では、雑草を川岸から数メートルにわたって刈り残しています。刈り残しにより昆虫類や雑草の種子が豊富になり、

それらをもとめて鳥達がやってきます。また鳥にとっては身を隠す場所にもなっています。

この刈り残しの中で今年もセッカの巣作りが観察されました。セッカはスズメよりも小さい鳥でなかなか見ることが出来ませんが、5月から6月にかけて大きな声で囀りながら河川敷を飛んでいるので、耳にされた方も多いのではないのでしょうか。ちなみにオオヨシキリは飛びながらは鳴きません。

オナガガモなどに餌をやっている人達がいます。人が餌を与えることで、人間を恐れなくなり、シベリアへ帰ったときに簡単に捕まえられて、食料にされているそうです。野鳥に餌を採る力を無くさないためにも、餌をやることは止めたいと思います。

（文／写真 山崎光久）

志木市を流れる柳瀬川と、川に隣接する水谷たんぼには、まだ多くの自然が残されており、さまざまな野鳥が観察されます。

エコシティ志木での、1997年6月から1999年12月の調査では62種類の野鳥が観察されました。日本で観察された鳥類は、約590種類、埼玉県野鳥の約290種類ですので、日本の野鳥の約1割、埼玉県の野鳥の約2割を柳瀬川で見ることが出来ます。

柳瀬川で観察されるもっとも珍しい鳥は、なんと言ってもタゲリでしょうか。12月頃に中央アジアから渡ってきて3月頃までいます。水谷たんぼに飛来しますが、特に雪が降ったあとなどは、羽が太陽の光に輝きなんともいえない美しさです。

美しい鳥の一番はカワセミです。翡翠色に輝く背と、オレンジ色の胸を持ち「飛ぶ宝石」と言われています。柳瀬川を時々行き来しているのを、目にされた方もいらっしゃるでしょう。うまくすれば、川に飛び込んで餌を採る瞬間や、ホバリング（停空飛行）を見ることが出来るかもしれません。

毎年10月頃から、冬の渡り鳥たちがやってきます。

カルガモは一年中いますが、ヒドリガモ、コガモ、オナガガモなど約10種類のガモを見ることが出来ます。中でもヒドリガモに混ざっているアメリカヒドリは、毎年1月に埼玉県全域で実施しているガンカモ一斉調査でもわずかに4羽しか観察されなかった珍しいガモです。

その他冬には、ジョウビタキ、タシギ、タヒバリ、アオジなどが見られます。

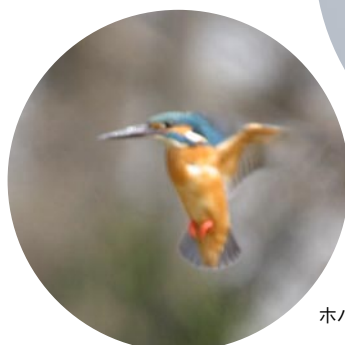
夏になると、ギョギョシ、ギョギョシという小さいオオヨシキリや、アマサギやチュウサギが水谷たんぼで見ることが出来ます。黄色のアイ



水谷たんぼのタゲリ



優雅に飛ぶアマサギ

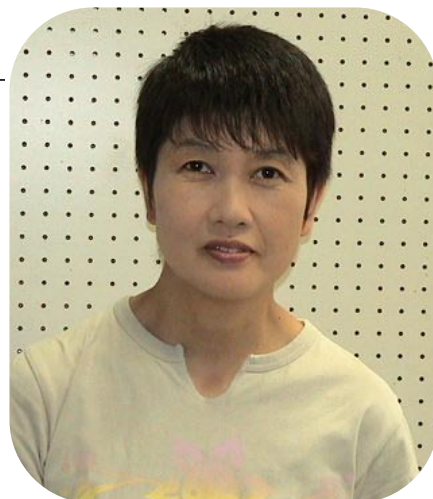


ホバリングするカワセミ

● 会員紹介

むらかみ くみ こ
村上 久美子さん

(三芳町竹間沢在住)



村上さんは、平成12年に、三芳町立竹間沢小学校開校20周年記念事業のビオトープ担当者として、学校ビオトープ作りに携わった事をきっかけに環境学習に興味を持ったそうです。そして柳瀬川の野草観察会に参加して、エコシティ志木の活動を知ったということです。

その後、公民館の呼びかけで、エコクラブ準備会にサポーターとして参加され、エコクラブの立ち上げに尽力してくれました。他にも町の環境基本計画検討委員や、公民館運営審議委員など、町作りに関する活動にも積極的に関わっています。

エコクラブでの村上さんは、きつぷのいいお姉さんといった感じでしょうか？ 子供たちや環境に対する真剣さと優しさが、その行動や言動ににじみ出ています。人を惹きつけるといいますか、村上さんの一生懸命がんばる姿を周囲のサポーターも見て、つられて

がんばってしまう、そんな雰囲気を感じてしまう人です。

今のエコクラブが、楽しみながら環境について学べるのも、村上さんの人や環境に対するセンスのおかげだと思います。エコクラブの子供達に出すおたよりも村上さんが手書きで作っています。PC全盛のご時世に、キラリと光るおたよりで、暖かみがあって子供にわかりやすいものになっています。こういう所からも村上さん的人柄がうかがえます。

現在、県生態系保護協会主催の最新県民環境カレッジを受講し、更なるステップアップを目指しがんばっています。村上さん、ホントに頼りにしてます、今後ともよろしくお願いしますね。

【紹介者＝小平幸治】

7/31
(日)

志木まるごと博物館「河童のつづら」打ち合わせ報告

志木まるごと博物館

河童のつづら



7名のスタッフにより「河童のつづら」の今年度の年間計画の相談をしました。

商店街とのより具体的な連携を進めるというコンセプトに基づき、お宝発見ツアーやお宝交流シンポジウムなどの事業を引き続き行っていく予定です。

連携の具体案として、① ホームページを活用して、商店街や各商店を志木まるごと博物館の視点でアピールし、活性化につなげる、② お宝交流シンポジウムでは、一緒

に共同作業を行えないか、などの意見が出ました。例えば「お宝マップづくりワークショップ」のようなものが考えられます。会員のみなさんのアイデアもお待ちしています。

第3回目となる、今年のお宝交流シンポジウムは11月27日(日) 午後1:30~4:00に予定しています。詳しくは「スケジュールカレンダー」をご覧ください。

(毛利将範)

竹の子エコクラブ

三芳町立竹間沢小学校の創立20周年記念事業で全校を挙げてビオトープが作られました。ちょうどその頃に始まった、学校完全五日制の実施に伴う受け皿事業実施のタイミングや、ビオトープ作りに関わった、環境や自然に興味がある方々がサポーターとして協力してくれるなど、様々な条件が揃うという幸運に恵まれたのをきっかけに、子供たちが、環境や地域学について、地域の人達と協力しあいながら学び、体験する活動を行なうために、竹の子エコクラブは平成14年に誕生しました。

現在4期目となる竹の子エコクラブは、子供たちが活動の主役です。1年の活動内容は自分たちで決めます。子供たちの活動を優しく支援するサポーターの存在もかかせません。代表サポーターの村上さんを初め、サポーターが熱心に企画から運営まで携わり、また、子供達へのお便りまで作ってくれるなど、積極的に活動をし、職員の私より良く動いています(笑)。その他にも、学校、地域住民、町内外の自然を愛する方々が力を貸してくれます。子供たちの発想を大切に、無理せず押し付けずを心がけています。モットーは「自然と楽しく遊ぶ」です。

竹の子エコクラブは、学校とも連携した活動を行なっています。学校の地域ボランティア制度に竹の子エコクラブを登録し、ビオトープでの定点観察、修理、改善作業などを、学校のビオトープ委員会と連携して行なったり、プール清掃時に流されてしまうヤゴを救出するなどしました。このように地域と学校が連携していく良い関係を築くことで、活動の幅も徐々に広がってきました。

町や周辺地域の、エコクラブ活動に協力してくれる方々とも一緒に活動しています。近所の農家に畑をお借りして、お芋堀をしています。冬には落ち葉はきもしています。これらは町で昔から行なわれている循環型農業に結びつく活動であり、子供たちにとって、地域を知る貴重な体験となっています。エコシティ志木の皆さんを講師として、柳瀬川での活動も毎年行なっています。水生生物の調査、川渡り、魚の取り



今年7月30日「柳瀬川で遊ぶ」の様子

方などを教わり、最後に投網を打って、柳瀬川の水族館を作ってもらい魚の観察をするなどしています。子供たちも「毎月柳瀬川がイイ!」というほど楽しいようで非常に人気のある活動になっています。

活動が広がる中、嬉しい事も増えました。一昨年はコカコーラ環境教育財団から表彰を受けました。今年の3月には、彩の国こどもエコクラブフェスティバルで活動事例発表をしました。同じく今年の8月25日には、環境省見学デーのイベントで、活動事例発表を依頼され、事例発表をすることになりました。子供達も自分たちのしてきた事が認められ、非常に励みになるようです。

最後に、子供達の事も紹介しておきましょう。

- ・雑木林で活動中、「自分のゴミは持って帰るよ」と言われた子供が、「そんなこと当たり前だよ」と返事を返してきました。
- ・雑木林の中に捨てられているゴミの山を見て、「ああ、拾いたいなあ」とつぶやいた子供がいました。
- ・ザリガニ採りに行った時、「ザリガニ採るよりゴミ拾う方が楽しい」といいゴミを拾った子供がいました。

このような、地域の宝となる子達がいるところ、それが竹の子エコクラブです。

(竹間沢公民館 小平幸治)

生き物情報は Tel/Fax 048-471-4275 Email : qwj11624@nifty.com(毛利) へ
ホームページ⇒<http://homepage3.nifty.com/moh/kappa/sizen-info-2.html>

《鳥類》

- ◆**カルガモ** (幼鳥2) →6/7 (火) 志木小学校・屋上ビオトープ (毛利将範)
- ◆**イワツバメ** (2) →6/21 (火) 志木市役所・駐車場 (毛利将範)
- ◆**イワツバメ**→6/26 (日) 志木市役所・駐車場、巣は全部で6個 (山崎光久)
- ◆**ツバメ** (幼鳥4) →7/9 (土) 新座市・志木駅南口の交番 (毛利将範)
- ◆**オオタカ** (1) →8/21 (日) 柳瀬川と新河岸川の合流点上空 (鈴木昭三他)
- ◆**キジ** (幼鳥2) →8/21 (日) 水谷田んぼ、メスと一緒にした (毛利将範他)



↑羽化したオオミズアオ
(05/8/13 ph.天田)

《魚類》

- ◆**ナマズ** (稚魚がかなり) →5/31 (火) 水谷田んぼ (須藤敦夫)
- ◆**オオクチバス** (8) →7/17 (日) 柳瀬川・志木中学校前 (伊藤智明)

《昆虫・他》

- ◆**ビロードハマキ** (成虫1) →6/8 (水) 志木市幸町1丁目 (毛利将範)
- ◆**ヒグラシ** (声) →7/7 (木) 志木市館1丁目・斜面林の方からか? (天田いづみ)
- ◆**ヒメクロイラガ** (若令幼虫) →7/7 (木) 志木市館1丁目 (天田 眞)
- ◆ **オオミズアオ** (終令幼虫4) →8/13 (土) 志木市館、ミズキにいた終令幼虫を飼育しました (天田 眞)

《植物》

- ◆**カラスウリ** (花) →8/7 (日) 志木大橋付近で採ってきた蕾を自宅で咲かせました (山崎光久)

☆会員状況

8月27日現在の2005年度会費納入済みの正会員は、個人69名、団体2団体、賛助会員は、2名3口です。

■カンパありがとうございました

寺田明子さん、増原直樹さん。

★本会の財政基盤は、
会員の方の年会費が
頼りです。

★2005年度分、まだ
の方は同封の振替用
紙で継続をよろしく
お願いします。

★宛名シールに会費の有効期間が
書いてあります。チェックしてく



■当会の団体正会員

志木おやこ劇場
生活クラブ生協志木支部

■当会が参加している、または主な 協力団体

いろは遊学館利用者の会
黒目川に親しむ会
グループぼんぼこ
(財)埼玉県生態系保護協会志木支部
志木NPOネットワーク会議
志木おやこ劇場
志木市コミュニティー協議会
市内小中学校
新河岸川水系水環境連絡会
柳瀬川流域ネットワーク

情報満載！
当会のホームページ

公式ホームページ

<http://www.cc.e-mansion.com/~eco/>

志木まるごと博物館「河童のつづら」

<http://homepage3.nifty.com/moh/kappa/>

●保健・福祉部会からのお知らせ

「私の介護と老後の暮らし」

日時：9月17日（土）午後1時～4時

会場：富士見市立ふじみ野交流センター

エコシティ志木も実行委員になっています。会員の皆様のご参加をお待ちしています。（加藤智康）

問い合わせ先：

☎049-254-0747（富士見市社会福祉協議会）

●お知らせ

当会が編集を受託した「志木市の環境」平成15年度版ができあがりました



昨年度、当会が編集作業を志木市より受託した「志木市の環境」平成15年度版（平成16年12月、志木市まちづくり・環境推進部 環境推進課発行）が完成、配布（有償）されています。

あまり市民に知られていない、環境施策に関する志木市の報告書ですが、当会のノウハウを生かして、従来のものより読みやすく、また、自然環境の項目や、全般にわたって資料編が充実しています。是非一度目を通してみてください。

また、平成16年度版（平成18年2月頃発行予定）の編集も受託し、現在編集の準備を進めているところです。

今年度は特に「志木市の自然環境」と「環境に関する市民活動」に重点をおいています。志木市の自然環境では、中学生でも理解できる内容で、志木市の自然のようすを分かり易く紹介する予定です。環境に関する市民活動の紹介では、市民団体への聞き取りなどを通じてより具体的に紹介する予定です。「志木市の環境」が、市民にとってより身近な報告書となるようにしたいと思っています。（文責：毛利将範）

尾崎 征男

「イナゴと活動写真」



日曜日だ、イナゴ捕りするべと庭に飛び出したら、アンちゃんから矢来掛けするんだから手伝え：と声がかかった。俺、逃げちゃべーかと思っただけ後おっかない。何すんだ：と聞いた。

物置の軒下から矢来棒をリヤカーに積むんだ。この矢来運びは大変で、「一反(992㎡)当り矢来棒は、足の棒の長さ7尺・70本。天井棒、凡そ3間・20本」、一反歩の田に使用する矢来棒はリヤカー一杯になり、それを2キロ先のタンポ(館耕地)まで運ぶんだ。

タンポに行く道は、二通りのルートがあり、それぞれ急な坂があった。1つが牛坂、もう1つが馬坂と言ひ、馬の力でも登り切れないほどの急の坂を牛坂と呼び、俺んちのタンポに行くのには、

牛坂を利用した。リヤカーの舵取りはアンちゃんが、俺は後ろから押した。道は凸凹の砂利道で舵取りは大変。穴ぼこをよけながら進み、曲がり角は矢来棒が長いので注意しないと曲りきれないが、アンちゃんほうまく曲がった。

やがて、リヤカーは牛坂を下り、反十道を曲がり13号のタンポに着いた。そこには、昨日刈り取った稲束が山の様に積まれていた。

俺は、矢来棒の足を1間(1・80m)間隔にあぜ道に配る。アンちゃん、棒を二股になるように土に刺し上端を縄で結ぶ。その上に天井棒を乗せ渡して終わるんだが、次の仕事がまた大変で、俺は逃げたくなかった。

積んだ稲束に近づくと、スズメは一斉に逃げるが、中には図々しいやつもいて、コノヤローと言って追い払う。イナゴもいた。束を持ち上げると一斉に飛び去る。その稲束を、ぬかるみに足を取られながら矢来まで運ぶ。矢来掛け作業の方が楽のようであったが、俺は背が低いので矢来掛けは出来なかった。

アンちゃん、もういいかい、俺、おばあちゃんが作った袋を持ってきたんだヨ(手ぬぐいを二つ折りにして竹筒を取り外しできるように、袋口に縫い合わせた物)、だから、イナゴ捕りたいんだ：、モオいいだんべ：と独り言、イナゴ捕りを始めた。

さつき逃げたイナゴは近くにいっぱいいたので袋はたちまち一杯になった。竹口を次の袋に付け替えまた捕り始めると、アレ、さつきまでいっぱいいたイナゴがいねエ。イナゴのやつら言葉を話すのかなア

：。何処へ消えちゃったんだ、しょうがね、まだ刈り取りの終わっていない田の周りを歩くうち、見慣れない女の子がイナゴ捕りをしていた。オメエどこから来たんだ。すると、東京から来たと言った。東京から、東京って遠いんだべくナ、俺まだ行ったことねえんだ：と一人呟いた。女の子は母ちゃんらしい人といっぺい捕っていた。あんなに捕ってどうするんだんべ：。

3つの袋が一杯になった。家に帰りオバアちゃん：ホレみて見ろヨ、ゴソゴソする袋を手渡すと、よく捕ったなと言ひながら袋のまま釜の中に入れ蒸かしはじめた。じきに蒸かし終わるとツーシ(竹で編んだ底の浅いザル)に入れ、ユキオ、日当たりの良い所で干してくれと言われた。

二日経った。オバアちゃんが真つ赤に干しがったイナゴの羽と足を取りながら、オメーも手伝いなと、言われるままに：手伝う。イナゴはチョット力を入れると折れてしまう。なんだか飛行機の羽を取った胴体みたいだナ：。全部とり終わると、オバアちゃんは台所で味付けを始めた。

醤油とザラメで味付けするイナゴは、竹箸でコロコロとホーロクの中を転がり赤グロクひかり、焦げたいい匂いがしてきた。

今夜のおかずか：キット美味いぞと舌鼓を打った。

晩方、皆んなに俺が捕ったイナゴだ、ウンマイだんべーと言ったら、オバアちゃんの味付けがいいからだんべナーと言われ返す言葉がなかった。その時だ、アンちゃんが、ユキオ来たぞ：。俺、メシの途中だが、玄関に走った。

大戸の節穴から差す、明かりが内側の障子に不思議な動く光景を映すのであった。これを俺んちでは、「活動写真」と呼んだ。

俺んちは、鉄道の脇にあるから特別の現象が見られた。

汽車の音が近づく：。下りの汽車だ：。条件がそろった。汽車のライトが庭の木々を浮き上がらせ節穴を通して、外の景色を逆さまに映し出す。俺、昼間、木の枝にバケツを縄で吊るして置いたのが果たして映るのか：、ドキドキしながら障子を見てみると、ポツポ、ポツポといいながら汽車が近づき走り去った。

オーイ皆んな見たか：バケツが逆さまに映った：。地球が逆さまになつたと驚いたら、皆がユキオは本当に馬鹿だなくと大笑いされた。ジャア何でなんでだか説明してくれヨと言ったがしてくれない。俺、大人になつたら一生懸命勉強すんべと言ったら、今から勉強しな：、と言われ頭に来た。

ウンマイイナゴ食ったくせに：誰が捕って来たのか：。と怒鳴ったら、皆が顔を見合せて笑う楽しい夕餉であった。

2005年度 第2回理事会 報告

日時：8月21日（日）14時～16時
場所：志木市いろは遊学館「第2会議室」
出席理事： 天田、伊藤、加藤、小島、高橋、
古谷、三浦、毛利、山口、山崎
書面表決理事： 金子、北原
ワザバー出席： 岩上監事、吉田監事
議長： 天田 眞（代表理事）
書記： 伊藤 智明（事務局長）

【議題と経緯】

（1）定款変更のための臨時総会開催について

◆第3回定期総会において定款変更をおこないましたが、その他にも運営上支障のある部分があったため、再度定款変更をおこないます。変更内容は今後検討し、12月18日（日）に臨時総会を開催し決定します。

（2）定款及び会員名簿の配布について

◆再度定款の変更を予定しているため、変更後に新しい定款を会員に配布します。

◆当会は個人情報保護法の対象外ですが、社会背景を考慮して、従来配布していた会員名簿については、氏名及び住所（丁目以下を削除したもの）のみとし、次回通信発行時に配布します。

なお、役員には氏名・住所・電話番号が掲載された名簿を配布します。

（3）細則の変更について

◆事務局に備え置くもの、受託事業、講師謝金、刊行物等についての細則を変更しました。

（4）事務局経費について

◆総会で議決された事務局経費の按分について決定しました。

（5）副代表理事の選任について

◆定款に副代表理事は1名又は2名となっていますので、新たに山口美智江理事を副代表理事として選任しました。

以上について議論・議決がなされました。

詳しい理事会議事録及び細則は事務局（天田代表宅）にありますので希望者は申し出てください。また、12月18日（日）に臨時総会を予定しています。定款変更の目的だけに行うものですが、その後に忘年会を行う予定ですので、多数のご参加をお待ちしています。

編集後記

◇当会の活動が充実するとともに、講師派遣、受託事業、行政の委員会等への出席など対外的な活動も増えています。楽しみながら環境を考える当会のプロジェクトに、あなたも参加してみませんか。

◇という訳で、通信の内容も充実してきています。実際に活動をレポートし、記事を書いてくれる人、編集会議に参加できる人、そんな編集ボランティアを募集中です。

（ふくろう）

● エコシティ志木通信
● 第39号・2005年9月1日
● 発行

● **NPO法人エコシティ志木**

● 〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

● 電話/FAX 048-471-1338（天田眞）

● URL <http://www.cc.e-mansion.com/~eco/>

● E-mail eco-shiki@ff.e-mansion.com

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています